

鵬

ニュースレター

第 30 号 2010 年

大阪府立大学工学部航空宇宙工学科同窓会
<http://www.aero-osakafu-u.jp/>

目 次

同期会報告 (3 期)	3 期	藤田 康毅 氏	1
航空 35 回 2010 (7 期)	7 期	杉山 吉彦 氏, 秩父靖文 氏	3
9 期生の小さな集い	9 期	大場 史憲 氏	5
恩師たちの十八番	7 期	杉山 吉彦 氏	5
平成 22 年鵬会総会に参加して	37 期	湯谷 洋司 氏	9
平成 21 年度収支決算報告			11
平成 22 年度事業計画および収支計画			11
鵬会会則変更について			13
平成 22 年度評議員一覧			16
第 2 回ホームカミングデイのご案内			17
鵬会ホームページ 登録のお願い			18
鵬会年会費 納入のお願い			19
不明者リスト			20
編集後記			22
中百舌鳥だより			22

3期生同期会報告

藤田 康毅（3期）

3期生の同期会は定年退職後の平成13年に始まり毎年1回会合を開き今年で丁度10回目で卒業50周年に当る。会合は今迄東京・熱海・有馬・石和・蓼科・館山寺等東京・大阪の中間の温泉地を選んで開催してきた。しかし今年は50周年と言う事で府大退職後、脳梗塞を煩ってリハビリを続けている藤井を引張り出そうと練馬から最も近い温泉宿と言う事で車で1時間の青梅岩蔵温泉を選んだ。大阪在住の伊藤・川端・徳永も異存なく決定したが、関東在住者も聞いたことがない温泉、青梅に近い狭山在住の諏訪に聞いた処、「知らないが知人が青梅にいるので調べる」と云って青梅市の観光パンフレットを送ってくれた。此れを元にインターネットで確認を取りながら計画を立てた。宿は明治16年創業岩蔵で最も古い俣多屋（ままだや）に決め、蛍観賞の為時期は6月末から7月初旬としてメンバーの都合を問い合わせ7月2日、3日に決定した。

7月2日14：40JR青梅線小作（おざく）駅東口集合、井上・岩瀬・川端・国政・諏訪・徳永・藤田・三木・宮武（藤井はやはり無理、成川はアトピー性皮膚炎、伊藤は当日朝偏頭痛）の9名が参加、送迎用マイクロバスで181号線を北上、東青梅の住宅地で結構な街並「こんな処に温泉あるの？」と云っていたら岩蔵街道の標識、途端に木々の茂った小高い丘に道がつながり右に小曾木ゴルフセンター、越えると谷間に開けた林の中に岩蔵温泉の標識があり、食事処「いろり」・「司翠館」・「鍋屋旅館」・「俣多屋」と並んでいた。俣多屋の前が市史跡の源泉で祠があり、俣田長松が明治16年に掘り当てた事が記されている。但し湯温は19℃の冷泉で宿は沸かし湯である。

俣多屋に着いて間もなく激しい雷雨で足止め、岩井堂散策を取止め宿の好意で早めに部屋を使わせて貰える事になり、部屋割りをして温泉に入った。風呂は内風呂であるが熊沢川に沿って岸壁に造られた岩風呂で竹藪と溪流が楽しめ、湯も軟らかく肌に優しい湯である。18：00夕食、ビール、焼酎、冷酒大辛口（澤乃井・小澤酒造）で乾杯、肴はやまめの塩焼きが美味かった。

19：40鍋屋旅館のマイクロバスに同乗、”岩蔵天然ポタルの里”成木川と直竹川の合流点上畑に向い20分で到着、雨上がりの溪流の音、乱舞する蛍の灯、鬱蒼とした対岸の樹林が幽玄の世界を作り、暫し至上の時間が過ごせた。20分程でバスに戻り帰宿、風呂に入って缶ビールを飲みながら歓談、50年前のダンスパーティ、飲んだ呉れての下宿への御帰還、話は尽きず就寝。

7月3日6：00起床、俣多屋のガーデン・野菜畑・カフェゆば・旅館かわ村等岩蔵温泉内を散策、朝風呂に入って8：00朝食、次期幹事三木雅雄を決定、9：30マイクロバスで塩船観音に向った。

塩船観音寺は大化年間（645－50）八百比丘尼の開基と云われる古刹、茅葺の仁王門・本堂・阿弥陀堂は室町時代に建立され



た（国）重要文化財、本尊十一面千手千眼観自在菩薩は鎌倉時代造立の（都）重要文化財と味わい深い寺であるが、何と云っても花の寺として知られ、つつじ（2万本）・あじさい・山百合・まんじゅしゃげ・萩が山門から昨年建立された裏山の塩船平和観音迄びっしりと植えられており四季折々に花が楽しめる様になっている。丁度紫陽花が満開で山門から本堂までの参道の左右は白・青・紫の花の絨毯が敷詰められていて、周囲を取巻く遊歩道にもつつじ、萩と紫陽花の花が連なっていた。かつては花など全然興味のなかった連中を寺など連れてきて大丈夫か心配していたが歳のせいか寺参りにも興味がある様で寺の中で1時間過ごした。

都営バスの塩船観音入口まで歩いたら出た後で30分待ち、前に病院があって木陰がありそうと云うので歩いて行っ

たら慶友病院、結局バス停一つ手前の慶友病院前で時間待ち、11時のバスで青梅駅前行き、青梅宿の象徴、旧青梅街道の映画看板の街並を散策、昭和レトロ商品博物館・青梅赤塚不二夫会館・昭和幻燈館など見たが興味のある者なし、昼食はうなぎ・そばで賛否を取ったら宮武以外全員「うなぎ」宮武は香川丸亀の産でうなぎが大好き、昨年の同期会で浜松に行った時に昼食にうなぎを食べ他の者はそのまま新幹線で帰ったが、彼一人城を見ると云って掛川に行った。その帰り大船一根岸間で強い下痢をもようし医者に行ったら胃洗浄、数日間絶食の憂き目にあい瘦せた。本人は浜松のうなぎのせいになっているが他は誰も信じていない」と云う事で「うなぎ」に決り！

旧青梅街道の一つ北側、線路よりの小路にうなぎ「寿々喜家」がある。池波正太郎推奨の店として観光案内にも紹介されている店である。いかにも古いうなぎ屋らしい小じんまりとした作りで9名で座敷は一杯になり、12時前に入って他に客が居なかったので予約無しに入れた。うな重「松」とビールを注文、待つ間に徳永・国政が所用があって別れること、三木と諏訪は青梅鉄道公園に行くこと、宮武と井上は玉堂美術館に行きたいと云う事で今年の同期会は此处で終了、岩瀬・川端・藤田は予定通り吉川英治記念館に行く事になった。うな重は予想通り柔らかさ、焼き加減、たれとも申し分なく美味かった。

吉川英治記念館は英治が昭和19年3月に西多摩郡吉野村（現青梅市柚来町）に疎開されて以降28



年8月品川に転居するまで10年間住まれた建物をそのまま残し（吉川家の私邸）、その奥に記念館を建設したもので書斎等はコースに含まれている。丁度戦時下の「新書太閤記」、終戦での絶筆、23年「高山右近」、25年4月「新平家物語」週間朝日連載開始、32年脱稿と正に我々の年代の者にとっては高校時代、学校の図書館で谷崎潤一郎の「源氏物語」、友人の家で週間朝日の吉川英治の「新平家物語」を読み漁り、文学青年気取りで純文学と国民文学論を友人と闘わせた、その原稿が此処にあった。吉野の柚木の里は青梅の北西、吉野梅郷の中にあつて付近にはハクモクレン・招春梅で有名な即清寺、青梅市梅の公園など梅園が拡った静かな佇まいの里である。

今年の同期会は梅雨期に計画し、雨に祟れる事を覚悟していたが無事計画通り遂行する事ができ、仲間と大いに語らう事が出来た。これが第1で何よりの成果である。この中に伊藤・成川・藤井のが居なかった事は非常に残念であるが古希を過ぎて毎年全員元気に顔を合せる事は段々難しくなるのかも知れない、しかし今年会った9名は皆元気で大丈夫の様で心強く思っている。来年は三木幹事の下、全員元気に又会いましょう！



航空35会2010

杉山吉彦、秩父靖文(7期)

昭和29年(1954年)、機械工学科のなかに航空コースが設置されて6年後の昭和35年(1960年)に、学生定員20名、教員定員22名での5講座編成の航空工学科が設置されました。この記念すべき昭和35年に航空工学科へ入学した者計16名の同期会が、“航空35会”です。航空35会は、卒業生の4名が大学に残ったこと、それに関連して、卒業生が一人も三菱重工(MHI)と川崎重工(KHI)へ就職しなかったなど、特異な同期生の集まりです。今年、2010年は、航空工学科の創設50周年となります。また、それぞれ、年齢が69,70歳になり、最近の賀状で、「そろそろ皆で集まりたいね」との意見の交換がありました。

このような情勢のもとに、2010年6月2日(水)～3日(木)にかけて、1泊2日での同期会を持ちましたので、簡単に内容をご報告いたします。予備の集まりとして、2009年11月8日(日)に大阪新阪急ホテルで開催された「澤田照夫先生の米寿を祝う会」に、呼びかけて航空35会の7名が集まりました。会のあと、近くの喫茶店で航空35会の打ち合わせをして、世話人には、奈良市に在住の秩父君を選出

し、その関連で、奈良、明日香地区を中心とした1泊2日の日程の大枠を決めました。

第1日：6月2日(水)

12時10分；近鉄西大寺駅に9名が集合。近くで昼食。歩いて10～15分の平城遷都1300年祭の平城宮跡へ。復原された第1次大極殿、朱雀門などを見学。また、遣唐使船復原展示を見学。平城宮跡会場は大変広く、歩き疲れました。復原された遣唐使船の前での集合写真を下に示します。車2台に分乗して、宿所のある明日香村へ。宿所は、岩壺君が勤務している関西大学の施設、関西大学飛鳥文化研究所でした。懇親会は、夕刻6時から10時まで、各自の近況報告からはじまり、飛鳥文化、技術教育、研究のありかた、健康問題まで、幅広く、談笑しました。



平城宮跡・遣唐使船復原展示の前にて；2010年6月2日

第2日：6月3日(木)

朝食後9時に、宿舍発。まず、近くの石舞台古墳を見学。昔は平なところにあったと思いますが、現在は方墳状の古墳の形に整備されています。さらに、奈良文化財研究所飛鳥資料館での「キトラ古墳壁画[四神]特別公開」を見学。その後、車で南下して、奈良県立橿原考古研究所へ。平城遷都1300年記念春季特別展「大唐皇帝陵展」を見学。ここでは、常設展「大和の考古学」でも、大変な量の資料展示があり、感銘しきりでした。車で奈良へ移動し、昼食。奈良公園の中にある奈良国立博物館で開催中の「大唐遣唐使展」を見学。“2年後に会いましょう”を申し合わせて、午後4時、近鉄奈良駅で解散。大変に教養たっぷりの航空35会でした。

9期生の小さな集い

大場 史憲(9期)

昨年10月24日にホテルグランヴィア大阪で小さな集いを持ちました。その一人の大場(現在仙台近郊の古川在住)に来阪の機会があり上島君に連絡したところ、急きょ連絡のとれるものだけでも集まろうということになり、写真の4人が駆け付け楽しいひと時を過ごすことができました。9期生は学生のころから何かと変人扱いされてきましたが、早67歳前後となり、多くは定年退職後の生活をそれぞれに楽しく過ごしているように伺っています。

中にはこの日集まった上島君(日進医療器社長)や南君(南医院)のように現役で今でも多忙な人もいますが。とくにお二人とも新型インフルエンザに関係したお仕事でその対応に超多忙ということでした。もう一人の上松君も心斎橋で洋服店を経営していたので、当日集まったものは皆一見航空工学とは関係のない人生を歩んでいることになるかもしれません。それでも他には阪大教授や大企業の社長やら専務やらをやった人もいますので変人というより多様性が豊かといってもらいたいですね。

残念なことです、同期生ではすでに4人がご逝去されました。以前は親や先生など一世代上の人たちのお別れに涙したのですが、友人や兄弟とのお別れには格別の寂しさがありますね。そんなこんな話をしているうちに久しぶりの大阪の夜が更けていきました。もう我々も残り少なくなってきたので、来年もぜひ集まろうと約束しました。今回急なことで連絡とれなかった人、連絡はとれたけど先約があつて来られなかった人には申し訳ありませんでした。それでは来年の再会を祈念して。



恩師たちの十八番

杉山 吉彦(7期)

私は、1960年(昭和35年)に航空工学科に入学し、学部、大学院修士・博士の計9年間在籍しました。この間の教授は、旧第1講座・航空流体力学担当の飯田周助先生、旧第2講座・航空構造力学担当の関谷壮先生、旧第3講座・航空機設計学担当の松岡健次先生、旧第4講座・航空原動機担当の澤田照夫先生、そして、旧第5講座・航空自動制御担当の中川憲治先生でした。それぞれの教授が、学生を大

変可愛がって下さり、教授と学生との交流が大変に密であったと思います。これら恩師たちを思い出す時、まずは、それぞれの先生のコンパなどでの十八番（おはこ）の歌が、印象深く、楽しかった思い出として思いだされます。ところが、当時の私は、歌詞の最初と最後位は、なにぶんにも何回も聞かされますので、覚えていましたが、途中の歌詞は覚えれないにままた、手拍子だけをしていました。そこで、今回、恩師たちの十八番の歌詞とその源流を調べてみました。幾つか、面白い事も分かりましたので、以下にまとめてみました。

飯田周助先生の十八番：

題：「高砂（たかさご）」

作者：世阿弥

歌詞：「高砂や、この浦船に帆を上げて、この浦船に帆を上げて、月もろともに出で汐の、波の淡路の島蔭や、遠く鳴尾の沖過ぎて、はや住の江に着きにけり、はや住の江に着きにけり、・・・」

解説：能楽「高砂」の中の、前シテと後シテとの間の“待謡”として歌われる謡です。能楽「高砂」は、夫婦が白髪になるまで仲良く過ごすという背景があり、格式の高い、めでたい内容の能楽の曲目です。それで、結婚式などで、古式ゆかしい祝言として良く謡われています。飯田周助先生のお人柄を彷彿とさせる十八番です。なお、飯田先生は、能を舞われ、また、能面を打たれました。したがって、飯田先生のこの“謡い”は、本式のものでした。

関谷壮先生の十八番：

題：「モン・パパ」

原曲：フランスのシャンソン “C’ est Pour Mon Papa”

歌詞：「うちのパパとうちのママはノミの夫婦、うちのパパとうちのママと並んだとき、大きくてきれいなママ、うちのパパとうちのママと話すとき、大きな声で怒鳴るのは いつもママ、小さな声であやまるのは いつもパパ、うちのママ もっさり服、うちのママ 流行の服、呉服屋の品物 いつもママ、その代わり勘定書き いつもパパ、古い時計 それはパパ、大きなダイヤモンドそれはママ、パパの大きな物は一つ、靴下の破れ穴～」

解説：1930年公開のフランス映画 “Le Roi des Resquilleurs（巴里っ子）” の主題歌 “C’ est pour mon papa” が原曲。1931年に宝塚歌劇「ローズ・パリ」で歌われた。歌詞は、宝塚の白井鐵造が訳出したもの。戦前の良き時代のコミック・シャンソン。その後エノケンが歌った。日本語訳の歌詞は、いろいろなバージョンがある。たとえば、「・・・ダンスに行くのは いつもママ、留守番するのは いつもパパ、・・・」などの歌詞もあったようです。弁当を食べながらも計算をしておられた研究一筋の関谷先生が、まじめな顔で歌うコミックソングで、いつも大笑いをしていました。

松岡健次先生の十八番：

題：「ラバウル小唄」

作詞：若杉雄三郎、作曲：島口駒夫

歌詞：「1. さらばラバウルよ また来る日までは、しばし 別れの涙がにじむ、恋いし懐かし あの島見れば、椰子の葉かげに 十字星。2. 船は出てゆく 港の沖へ、愛しあの娘の うちふるハンカチ、声をしのんで 心で泣いて、両手合わせて ありがとう。3. 波のしぶきで眠れぬ夜は、語りあかそよ デッキの上で、星がまたたくあの星みれば、くわえ煙草もほろ苦い。4. 赤い夕陽が 波間に沈

む、果ては 何処ぞ 水平線よ、今日もはるばる 南洋航路、男 船乗り かもめ鳥。5. さすが男とあの娘は言うた、燃ゆる思いを マストにかかげ、ゆれる心は 憧れはるか、今日は 赤道 椰子の下。」

解説：ラバウルは、パプアニューギニアのニューブリテン島の北東端にあり、オーストラリアに近く、日本からは“はるか”南方です。1942年（昭和17年）1月に、日本軍の南方支隊が、当時オーストラリアの信託委任統治領であったラバウルを占領し、軍の南方前線基地を作り、また航空基地にはラバウル航空隊が駐屯しました。「ラバウル小唄」は、1940年（昭和15年）の歌謡曲「南洋航路」（行く先は、当時、日本の委任統治領であった、パラオ、サイパン、トラック、ポナペ諸島方面）が原曲です。当然、元歌には、“ラバウル”は出てきません。元歌の歌詞の1番から3番が、「ラバウル小唄」では、歌詞3番から5番に移っています。そして、ラバウル基地の関係者のだれか？が、ラバウルをイメージした歌詞1番と2番を追加して、替え歌「ラバウル小唄」が誕生しました。この替え歌「ラバウル小唄」は、1943年（昭和18年）ごろから、多くの人に親しまれて流行りました。松岡先生は、ラバウル航空隊の整備を担当しておられたそうです。同じ「ラバウル小唄」の古関裕而作曲バージョンでは、歌詞の1番は、同じですが、たとえば5番は、「さすが男と あの娘が言うた、燃ゆる思いは 操縦桿まかせ、明日の命は あの雲まかせ、散って 九段の 若さくら。」とラバウル航空隊をイメージした軍歌調の替え唄になっています。

三木鉄夫先生の十八番：

題：「酋長の娘」

作詞・作曲：石田一松

歌詞：「1. わたしのラバさん、酋長の娘、色は黒いが、南洋じゃ美人。2. 赤道直下 マーシャル群島、ヤシの木陰で テクテク踊る。3. 踊れ踊れ、どぶろくので、明日はうれしい、首祭り。4. 略。5. 略。」。

解説：この歌は、手振り・身振りで踊りながら歌われます。旧第3講座の初代教授（第2代が松岡健次先生、第3代が室津義定先生）であり、また、航空工学科創設者である三木先生が、講義での厳粛な顔から打って変って、お酒で赤くなった顔で踊りながら歌われると、全員が抱腹絶倒で笑い出す、まことに楽しい“出し物”でした。これは1930年（昭和5年）に発表された歌謡曲で、1892年（明治25年）にミクロネシアのトラック島に移住し、島の酋長の娘と結婚した高知県出身の实在の人物をモチーフにしたコミックソングです。なお、現在では、“酋長”という言葉が放送禁止用語に該当する由で、この歌が放送される事はないそうです。

補足：三木鉄夫先生に関連して、航空工学科の流れについて、簡単に振り返ってみましょう。日本における航空工学関係の大学教育は、1918年（大正7年）に、東京帝国大学に、最初の航空学講座が出来たのが始まりです。時代の趨勢を踏まえて、当時の東京帝国大学の準備委員会が、大風呂敷を広げての予算請求をしていたところ、なんと、まるまるの予算がついて、大学側があわてたそうです。その19年後、1937年（昭和12年）に、東京帝国大学の次に、大阪帝国大学と九州帝国大学に航空学科がつくられました。それぞれの大学では、造船系の教授が、設立の準備に当たったとの由です。戦闘機“隼（はやぶさ）”の設計に参画され、ロケット博士として有名な糸川英夫先生の回想によると、東大の航空学科で習った流体力学は、船のスクリューに関する講義であり、およそ航空機の設計には役に立たなかったとか。我が国で2番目の大阪帝国大学・航空学科の航空機設計学の講座担当者が、三木鉄夫教授でした。三木先生は、ドイツのハインケル（航空機製造会社）で、先進の航空機設計法を学んでこられた技

術者でした。それで、三木先生の研究室では、新型航空機の研究・開発をしておられたようです。時代背景から、当時の航空機の研究・開発は主として軍用機に関係していたものと推察されます。このような状況もあり、戦後（航空技術関係の教育・研究の禁止、航空学関連研究室の閉鎖、関係者のパージ）、三木鉄夫先生の旧大阪帝国大学・航空学科の流れは、大阪大学では再興されないで、大阪府立大学で再興されました。結果として、東大について2番目に航空学科を作った阪大に、現在、航空学関連の学科がない背景の一つには、このような歴史も関係があると思われれます。三木先生は、飯田、松岡、中川、澤田の諸先生の恩師です。なお、三木先生は、ご退職後、航空工学の新しい方向は宇宙工学であるとの先見の明のもと、宇宙工学の本の翻訳をされたりして、宇宙工学を研究されました。しかし、府大の航空工学科が、宇宙工学へと教育・研究の舵を切るのは、室津義定先生が旧第3講座の教授になられた1982年（昭和57年）まで待たなければなりませんでした。

室津義定先生の十八番：

題：「南国土佐を後にして」

作詞・作曲：武政英策（たけまさ えいさく）

歌詞：「1. 南国土佐をあとにして、都へ来てから幾歳（いくとせ）ぞ、思いだします故郷の友が、門出に歌ったよさこい節を、“土佐の高知のハリマヤ橋で、坊（ぼん）さんかんざし 買うをみた。” 2. 3. 略。」

解説：1959年（昭和34年）、ペギー葉山が歌って大ヒットした歌謡曲で、発売からほぼ1年で約100万枚のレコードが売れた。元歌は、高知民謡「よさこい節」を（連の最後の“歌詞”に）取りこんだ替え歌バージョンとして、地元で歌われていたローカルソングです。まず、陸軍の第40師団（四国混成部隊；通称“鯨”師団）の歩兵第236連隊（高知県民連隊）の兵士たちから、四国の他県の兵士へ伝わり、四国一円に広まったそうです。この歌を、土佐に疎開していた武政英策が酒の席で聞いて、元歌は歌詞も曲も歌う人ごとに違っていたものを、歌詞と曲を彼なりに作り直し、全国ブランドの歌謡曲「南国土佐を後にして」として完成させました。なんと、作詞・作曲者の武政英策（東京電気学校・現東京電機大学；卒）は、阪大の三木研究室で、顧員（技官？）となり、飯田周助先生などを助けて、風洞試験、カタパルトの改良、オートジャイロの開発などに参加していた由。なお、高知民謡「よさこい節」も、もともと数え切れないほど沢山の替え歌・バージョンがあったそうで、これも、武政英策が採譜して、現在の歌詞と曲にまとめて、誰もが愛唱できるように完成させた歌です。

澤田照夫先生の十八番：

題：「戦友」

作詞：真下飛泉（ましも ひせん）、作曲：三善和気

歌詞：「1. ここはお国を何百里、離れて遠き満州の、赤い夕日に照らされて、友は野末の石の下。2. 思えばかなし昨日まで、真っ先かけて突進し、敵を散々懲らしたる、勇士はここに眠れるか。3. ああ戦いの最中に、隣りに居ったこの友の、にわかにはたと倒れしを、我は思わず駆け寄って。4. 軍律きびしい中なれど、これを見捨てて置かりょうか、“しっかりせよ”と抱き起こし、仮包帯も弾のなか。5. ～13. 略。14. 筆の運びはつたないが、行燈のかげで親たちの、読まれる心おもいやり、思わずおとすひとしづく。」

解説：この「戦友」は、1905年（明治38年）、日露戦争中に作られた歌で、日本軍とロシア軍が激しく戦った奉天会戦の実情を聞いて、戦争体験のない真下飛泉が、作詞したそうです。歌詞1では、「こ

こはお国“の”何百里」ではなくて、「ここはお国“を”何百里」が正しいようです。4. では、「軍律きびしい中なれど、・・・」とあります。これは、“軍律は、交戦中に戦友を介護することを許さなかった。”ことを意味しています。真下飛泉がこの歌詞を発表した1905年の前年に、与謝野晶子の「君死にたまうことなかれ」が発表されています。作詞者が、与謝野晶子と同世代であり、与謝野鉄幹の新詩社に所属し、詩誌「明星」に作品を発表していたことを知ると、この歌詞の気持ちが一層よく理解できます。この「戦友」は、戦友を失った者の哀愁をせつせつと歌っており、戦前、軍部は、軍律違反の内容もあり、この歌を歌うことを禁止したそうです（戦後はGHQが一切の軍歌を禁止）。それにも関わらず、多くの人々により愛され、歌い継がれてきました。

中川憲治先生の十八番：

題：「第四高等学校寮歌」

作詞：岡本順一、作曲：駒井重次

歌詞：「1. 北の都に秋たけて、吾等二十の夢数う、男女（おとこおみな）の棲む国に、二八（にはち）に帰るすべもなし。2. そのすべなきを謎ならで、杯捨てて嘆かんや、酔える心の吾れ若し、吾永久に緑なる。3. ～7. 略。8. 氷塊の如わが胸に、抱く心の解け出でて、語り明かさん今宵かな、星影冴ゆる記念祭。」

解説：正式な題は、「大正四年第四高等学校時習寮南寮寮歌」と称するそうです。第一高等学校寮歌「ああ玉杯に、花うけて・・・」、北大の寮歌「都ぞ弥生の・・・」ほどに有名ではありませんが、中川先生の教えを受けた者にとっては、忘れることの出来ない懐かしい歌であり、“アイン、ツヴァイ、ドライ”の掛け声で歌います。歌詞の1番の最後、“二八に帰るすべもなし”とある“二八”は“16”であり、“いまさら16歳には戻れない”との意味です。古い言い回しが多く、中川先生が歌うのを聞いていて、途中から歌詞の意味が分からなくなることがしばしばでしたが、最後の“星影冴（さ）ゆる記念祭”だけは、全員が大声でリフレイン合唱するのが常でした。



平成22年度鵬会総会に参加して

湯谷 洋司（37期）



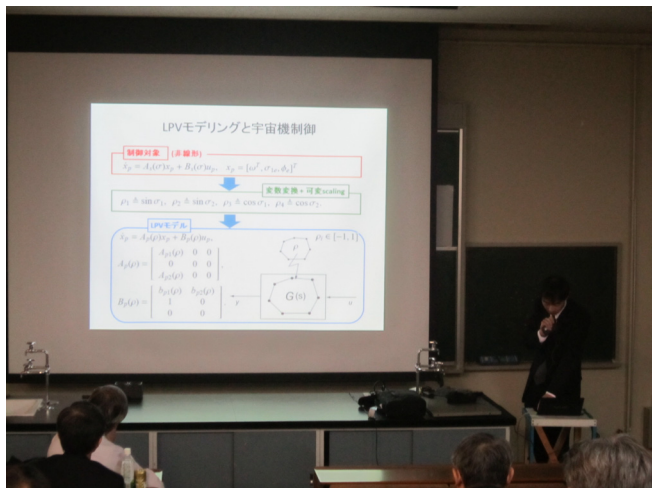
鵬会総会の模様

2010年5月22日、平成22年度の鵬会総会及び特別講演会に参加致しました。

総会においては、室津先生のご挨拶に始まり、昨年度の活動及び今年度の活動予定の報告、会則の一部改定についての採決等、がありました。

鵬会総会への参加は初めてでしたが、参加時間の中で、私なりに、鵬会の意義について考えさせられました。学生たち、母校或いは、今後大学に入るのであろう子供達に何かできないか、自分なりに考えなければ、と感じました。

特別講演会においては、2件の報告がありました。1件目は、「航空宇宙工学における制御工学の役



特別講演会の模様

割」(下村先生)、2件目は、「宇宙環境の衛星障害」(中村先生)でした。正直、全ての内容について理解できたわけではありませんでした、久しぶりに、会社での仕事と違って、純粋なご研究内容に触れ、また、少し、勉強の意欲(?)が湧きました。

その後の懇親会は、津村俊弘先生の春の叙勲での「瑞宝中綬章」の受章のお祝いでも始めました。これまでの長年に亘るご研究又はご活動に対する評価であり、改めて、お祝いを申し上げたいと思います。卒業以来、なかなか、先生とお話しする機会がございませんが、お話しさせて頂くたびに、常に何か新



懇親会の模様

しいことをやってやろうと考えられているご様子なのが印象に残っています。働き盛りの後進の我々も、日々の仕事に疲れている場合ではなく、ますます、一年発起が必要だと感じました。

卒業以来、実家の和歌山（又は家内の実家の和泉）に帰ることはあっても、懐かしいと言う気持ちはあっても、なかなか、大学には立ち寄ることはありませんでした。多くの皆さんが感じておられることかもしれませんが、まずは、「立ち寄る理由がこれと言ってない（あるいは思いつかない）」というのが正直なところでしょうか。卒業して時間が経つ多くの先輩方ならなおさら、知っている人も少ないし、大学の様相も変わっていると、立ち寄りにくくなるものです。

微力ながらも、なんとか、気軽に立ち寄れる又は魅力的な大学、学部、講座にしていきたいものです。



平成 21 年度収支決算報告

収入の部		支出の部	
会費収入	814,000	会誌およびニュースレターの印刷	148,150
寄付金*1	234,108	役員費	405,972
事業等による収入	0	通信費	153,160
雑収入*2	19,006	会議費	23,600
鵬会ホームカミングデー*3	134,090	卒業生および修了生表彰	87,520
前年度繰越金	5,152,692	卒業および修了祝賀会補助	38,000
		在学生の研究発表旅費補助	140,000
		雑費	48,008
		鵬会ホームカミングデー*3	134,090
		予備費*4	5,175,396
計	6,353,896	計	6,353,896

*1 「航空宇宙工学入門」印税 *2 受け取り利子, *3 工学部同窓会からの支援金
*4 次年度繰越金

平成 22 年度事業計画および収支計画

1. 事業計画

下記の事項に対応する事業を計画し、実施する。

- (1) 会誌およびニュースレターを発行し、会員相互の親睦と啓発、会員間の情報交換、会員と母校との連携を促進する
- (2) 鵬会ホームページを積極的に活用し、会員および母校の教育研究活動等の情報を発信し、会員相互の親睦と啓発、会員情報の充実、会員間の情報交換、会員と母校との連携を促進する
- (3) 同期会の活性化に努める
- (4) 会費納入率の向上に取り組む
- (5) 航空宇宙工学科創立50周年記念誌の編集をする
- (6) 会員相互の親睦と啓発、会員間の情報交換、会員と母校との連携を促進するために、親睦行事を実施する

- (7) 母校の航空宇宙工学分野の教育研究活動を支援し、在学会員の教育研究を奨励するために、特色ある卒業研究および修士論文を発表した者を表彰する
- (8) 卒業および修了する会員に対する祝賀行事を補助する
- (9) 母校の航空宇宙工学分野の教育研究活動を支援し、在学会員の研究活動を奨励するために、在学会員が学会等で研究発表を行う費用を補助する
- (10) 会員が母校を訪問する Home coming day を企画・実施する
- (11) その他

2. 収支計画

(1) 支出計画

項目	支出額 (円)
会誌およびニューズレターの印刷	150,000
役員費 (事務局事務、会誌、ニューズレターの発行、およびホームページ作成・維持・管理のためのアルバイト費用等)	400,000
通信費	250,000
会議費	50,000
卒業生および修了生表彰	150,000
卒業および修了祝賀会補助	50,000
在学生の研究発表旅費補助	200,000
雑費	30,000
合計	1,280,000

(2) 収入計画

項目	収入額 (円)
会費収入	1,100,000
寄付金 (「航空宇宙工学入門」、森北出版の印税)	140,000
事業等による収入	20,000
雑収入	20,000
合計	1,280,000

資産内訳

普通預金	275,396
定期預金	4,900,000
合計	5,175,396

鵬会会則改訂について

下記の理由により、鵬会会則を改訂することが平成 22 年度鵬会総会で承認されました。

- ① 全学同窓会組織として、大阪府立大学校友会が発足し、全ての入学生がその会員として登録されることとなった。そして、各学科同窓会は、校友会の単位構成組織と位置付けられ、入学時に鵬会の会費等も同時に徴収することが可能となった。そのために、鵬会会則に現会則における“在学する会員”を“学生会員”とし、入会金の徴収と在学中の会費免除を明記することとする。
- ② 現会則では、卒業生、修了生、在学した者、在学学生を会員としている。従って、連絡先不明の会員ならびに在学会員も組織の意思決定に係わる構成員となっており、現会則に定める臨時時総会の招集および総会の議決の規定を継続的かつ円滑に運用することは、容易でないと予測される。そのために、それらに参画する必要会員数を見直す必要がある。結果として、現規定でその数をいずれも“正会員現在数の 5 分の 1”と定めているものを、“正会員現在数の 10 分の 1”に変更する。さらに、総会が開催できない場合には、会則改正を評議員会の議決で行うことができることとする。

以下に、会則の改訂版を示します。改訂部は下線で表しています。

鵬 会 会 則

第 1 章 総則

(名称)

第1条 本会を鵬会と称する。

(事務局)

第2条 事務局を大阪府立大学大学院工学研究科航空宇宙海洋系専攻航空宇宙工学分野（以下、母校と呼ぶ）内に置く。

(目的)

第3条 本会は、会員相互の親睦と啓発、会員間の情報交換、会員と母校との連携を図り、母校の航空宇宙工学分野における教育研究活動を支援することを目的とする。

(会員の種類)

第4条 本会の会員は、正会員、学生会員および特別会員とする。

(正会員)

第5条 正会員は、大阪府立大学工学部航空宇宙工学科（前身の機械工学科航空工学コースおよび航空工学科を含む）を卒業した者、大阪府立大学大学院工学研究科航空宇宙海洋系専攻航空宇宙工学分野（前身の航空工学専攻および機械系専攻航空宇宙工学分野を含む）を修了した者、上記学科および上記専攻分野に在学した者とする。

(学生会員)

第6条 学生会員は、大阪府立大学工学部航空宇宙工学科および大阪府立大学大学院工学研究科航空宇宙海洋系専攻航空宇宙工学分野に入学し、在学する者とする。

(以下、条番号 繰り下げ)

(特別会員)

第7条 特別会員は、大阪府立大学大学院工学研究科航空宇宙海洋系専攻航空宇宙工学分野（前身の学科および専攻分野を含む）に教員として在職する者および在職した者とする。

第 2 章 役員

(役員の種類)

第8条 本会に、次の役員を置く。

会長 1名、副会長 2名、理事 10－15名（会長、副会長を含む）、

監事 3名、評議員 第9条1項に定める人数、顧問 若干名

(評議員の選出および評議員会)

第9条 評議員は、各卒業年次および各修了年次から原則として1名以上を選出する。

2 評議員は評議員会を組織し、本会則に定める事項を審議する他、理事会の諮問に応じて会長に対して必要な事項について助言する。

(理事の選出および理事会)

第10条 理事は評議員会において選出する。

2 理事は理事会を組織し、本会の目的を達成するために必要な事務および事業等を審議し、総務、経理、広報、親睦、事業等を分担して執行する。

(会長および副会長の選出および任務)

第11条 会長および副会長は、理事会において選出する。

2 会長は本会を総理し、本会を代表する。

3 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるとき、または欠けたときは、会長が予め指定した順序によってその職務を代行する。

(監事)

第12条 監事は、評議員会で選出する。ただし、少なくとも監事1名は、会員以外から選出しなくてはならない。また、理事が監事を兼ねることはできない。

2 監事は、本会の活動状況を監査する。

(顧問)

第13条 顧問は、評議員会で選出し、会長が委嘱する。

2 顧問は、会長の諮問に応じて、本会の運営に関して助言する。

(役員の任期)

第14条 役員の任期は2年とする。ただし、再選を妨げない。

第3章 会議

(会議の種類)

第15条 本会の会議は、通常総会および臨時総会（以下、総会と呼ぶ）、評議員会、理事会とする。

(通常総会)

第16条 通常総会は、原則として隔年、会長が招集する。

2 通常総会が開催できない場合は、その開催を評議員会の開催をもって代替する。

(臨時総会)

第17条 臨時総会は、会長が必要と認めるとき開催する。

2 会長は、評議員会が総会の招集を決議した場合、ならびに正会員現在数の**10分の1以上**、または監事から会議に付議すべき事項を示して総会の招集を請求された場合には、臨時総会を招集しなければならない。

(総会の議長)

第18条 総会の議長は会長とする。

2 第**17**条2項に基づいて招集された臨時総会の議長は、正会員の互選により選出する。

(通常総会の議事)

第19条 通常総会は、次の事項を審議する。

- (1) 事業計画および収支計画
- (2) 事業報告および収支決算
- (3) その他、本会に関する重要な事項

(通常総会における付帯行事)

第20条 会長は、理事会の議を経て、通常総会開催に際して、本会の目的達成に資する付帯行事を実施する。

(総会の議決)

第21条 総会は、正会員現在数の**10分の1**以上が出席しなければ、会議を開き、議決することができない。ただし、当該議事に関して書面で予め意思を表示した者は、出席者とみなす。

2 総会の議事は、出席者の過半数で議決する。ただし、可否同数のときは、議長が決するところとする。

(評議員会)

第22条 評議員会は、少なくとも年1回会長が招集し、議長は会長とする。

2 会長は、評議員現在数の5分の1以上、または監事から会議に付すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、評議員会を招集しなくてはならない。

3 前項に基づく評議員会の議長は、評議員の互選により選考する。

(評議員会の議事)

第23条 評議員会は、次の事項を審議する。

- (1) 事業計画および収支計画
- (2) 事業報告および収支決算
- (3) その他、本会に関する事項

(評議員会の議決)

第24条 評議員会は、評議員現在数の2分の1以上の出席で成立する。ただし、当該議事に関して書面でその意思を表示した者は、出席者とみなす。

- 2 議事は出席者の過半数で議決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところとする。

(理事会の招集)

第25条 理事会は、会長が招集する。

- 2 会長は、理事現在数の2分の1以上、または監事から会議に付議すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、理事会を招集しなくてはならない。
- 3 理事会の議長は会長とする。ただし、前2項に基づいて招集された理事会の議長は、理事の互選により選出する。

(理事会の議事)

第26条 理事会の議事は、次の事項とする。

- (1) 本会の事業計画および収支計画、ならびにそれらの執行等の運営に関する事項
- (2) 総会および評議員会に付議する事項について決議することができる。ただし、当該決議事項については、次期総会および評議員会において承認を得なければならない。
- (3) その他、本会に必要な事項

(理事会の議決)

第27条 理事会は、理事現在数の2分の1以上の出席で成立し、議事は出席者の過半数で議決する。ただし、可否同数のときは、議長の決するところとする。

(会長の専決処分)

第28条 緊急を要する場合には、会長は本会の各会議の議決に拘らず、専決処分を行うことができる。ただし、当該専決処分については、事後に各会議の承認を得なくてはならない。

(議事録の保存)

第29条 総会、評議員会および理事会の議事録は、議長が作成し、議長および出席者の代表2名が署名した上、これを保存する。

第4章 会計

(資産)

第30条 本会の資産は、次の通りとする。

- (1) 会費
- (2) 寄付金
- (3) 事業に伴う収入
- (4) その他の収入

(資産の管理運用および経理事務)

第31条 資産の管理運用は、理事会の決議に基づき、会長の責任において行う。

- 2 経理事務は、経理担当の理事が行う。

(会費および入会費)

第32条 正会員の会費は、年額2,000円とする。

2 学生会員の入会費は、10,000円とする。ただし、学生会員からは会費を徴収しない。

- 3 特別会員からは会費を徴収しない。**

(事業計画および収支計画)

第33条 会長は、各会計年度の事業計画および収支計画を作成し、理事会、評議員会および通常総会の審議に付するものとする。

(収支決算)

第34条 会長は、各会計年度の収支決算を行ない、監事による監査を受け、その結果を付して、理事会、評議員会および通常総会に報告し、承認を受けなければならない。

(会計年度)

第35条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第5章 附則

(支部の設置)

第36条 本会は、必要に応じて支部を置く。

(本会則の改正)

第37条 本会則の改正は、総会出席者の3分の2以上の議決で行う。ただし、総会が開催できない場合には、評議員会の出席者の3分の2の議決によって本会則の改正を行うことができる。

(本会則の実施)

第38条 本会則は、平成20年4月26日より実施する。

2 本会則は、平成22年5月22日より実施する。

平成22年度評議員

1期	池田 靖 神谷 博	14期	塩澤 善一郎 辻川 吉春	28期	楠本 富佐夫 菅沼 喜宣	42期	嘉藤 伸一 高田 正之
2期	小原 瑛 坪 圭介	15期	足立 剛 福本 陽三	29期	石田 明 下村 卓	43期	中井 悠葵* 益吉 一豪
3期	川端 迪男 伊藤 恭平	16期	豊崎 義行 井澤 恒晴	30期	長井 謙宏 深井 浩司	44期	駒田 和也 濱谷 雅也*
4期	稲垣 弘 上野 博志	17期	中橋 和博 西脇 正明	31期	北田 登志 櫻井 健司*	45期	徳本 修亮* 宮地 徳蔵
5期	駒坂 陸生 森田 喜保	18期	炭本 洋吾 八木 良蔵	32期	坂上 昇史 上山 慎也	46期	乙守 正樹* 平岡 智宏
6期	種村 長生 室津 義定	19期	表 久紀 作山 喜秋	33期	井出 聡 堀井 省吾	47期	久保谷 岳央 丸山 晃司*
7期	岩壺 卓三 杉山 吉彦	20期	岡田 信夫 片山 一夫	34期	坂本 慎介 松崎 典男	48期	中野 秀紀 近藤 暁
8期	安東 研介 中村 洋明	21期	趙 明濟 平岡 哲男	35期	木下 新一郎 徳永 英紀	49期	楠亀 拓也* 山内 徹
9期	上島 一夫 宗佐 毅一	22期	石田 良平 橋本 雅文	36期	及川 貴一朗 道川 友規	50期	小泉 拓郎 古川 琢也*
10期	大沢 康彦 松尾 肇	23期	吉田 昭彦* 横山 康彦	37期	平井 誠 永野 信雄	51期	岡田 周一 村岡 信嘉
11期	井川 知行 大朝 隆光 東田 秋夫	24期	小松 信雄 里見 秀世	38期	比江島 俊彦 大今 宏史	52期	福西 瑛司 藤本 卓也
12期	西岡 正義 橋本 勝也 渡辺 文夫*	25期	岩崎 龍一 撫佐 郁夫	39期	田中 恒久 松本 善雄	53期	江藤 力* 児玉 善顕*
13期	和手 信泰 条 幹雄*	26期	細井 啓志 川口 貴史	40期	松田 哲 大谷 浄* 布目 裕文*	院修了	福田 敏 小木 曾 望
		27期	明田 憲典 出町 隆史	41期	淀川 健悟* 津嶋 辰郎*		* 新任 (敬称略)

第2回鵬会ホームカミングデイ 案内

第2回目の「ホームカミングデー」を下記の通り開催いたしますので万障お繰り合わせの上、ご出席をお願いします。行事としては研究室見学と懇親会を企画しました。久しぶりに、中百舌鳥キャンパスへ足をお運び下さい。尚、今年度は大学主催のホームカミングデーも開催されますので、あわせてご参加下さい。(大学ホームページ参照 <http://www.osakafu-u.ac.jp>)。さらに当日は、「白鷺祭(大学祭)」(<http://sagisai.net/>)も開催されています。

記

日時：平成22年11月7日(日) 13:00～18:30

場所：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス

スケジュール

13:30～16:00 研究室等公開

航空宇宙流体力学研究室 (新井、坂上研究室)	A10棟
航空宇宙構造工学研究室 (千葉、南部研究室)	A10棟, A9-113A室
航空宇宙推進工学研究室 (辻川、金子研究室)	A9-116, 117室
小型宇宙機システム研究センター	真空チャンバー A5-11C室 まいど1号運用管制室 A9-110C室

17:30～18:30 鵬会懇親パーティー (A9棟 311室)

参加費用： 2,000円

以上

FAXにてお申し込みの場合

お申込書に必要事項をご記入のうえ、下記FAX番号に送信して下さい。

FAX：072-254-9906

E-mailにてお申し込みの場合

お名前、卒業年次、連絡先をご明記のうえ下記宛に送信して下さい。

E-mail：info@aero-osakafu-u.jp

準備の都合もありますので、10月29日(金)までにお申し込み下さい。

鵬会ホームカミングデー 申込書

FAX：072-254-9906

2010年 月 日

鵬会事務局 行

鵬会ホーム カミングデー	参加・不参加	懇親会	参加・不参加
ご氏名		卒業年	
TEL&FAX			
ご住所			
E-mail			

参加・不参加については○で囲んでください

鵬会ホームページ 会員登録のお願い

鵬会ホームページでは、鵬会の活動の状況を知ることはもちろんのこと、航空工学科の現状や、先生方、そして、会員の方々との情報交換にも役立つものとしていきたいと思っております。会員登録をお願いいたします。

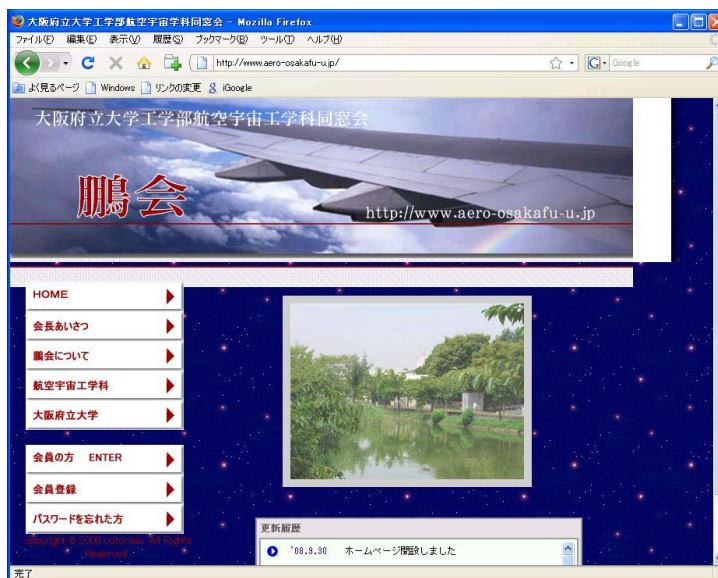
■ 鵬会ホームページ

<http://www.aero-osakafu-u.jp/>

ホームページの内容

- ① 鵬会ニュースレター・会誌を見る、または、ダウンロードすることができます。
- ② 鵬会の活動の様子を見ることができます。総会、理事会の議事録等を見ることができます。
- ③ 鵬会の活動状況を知ることができます。
- ④ ログインした人がすでに登録したご自身の会員情報を修正することができます。

また、会費納入の実績を見ることもできます。



■ 会員登録の方法

<http://www.aero-osakafu-u.jp/> にアクセスすると鵬会のトップページが表示されます。ここから、会員専用ページにログインすることができます。ログインするには、事前に会員登録が必要になります。次に、会員登録の手順を紹介いたします。

- ① "会員登録" をクリック
ホームページの左側の会員登録メニューをクリックします。
メールアドレスを入力し、登録ボタンをクリックします。
- ② 情報登録画面にアクセス&情報登録
入力したメールアドレスにメールが届きますので、そこに記入されている URL をクリックして情報登録画面にアクセスし、必要事項を入力します。登録完了ボタンを押すとログインできる状態になります。確認のため、登録したメールアドレスに登録完了の通知メールが届きます。
- ③ "会員の方 Enter" からログイン
登録したメールアドレスと入力したパスワードでログインします。

■ ホームページについて

一人でも多くの鵬会会員の方々に利用していただきたいと思っております。ホームページの利用に関するお問い合わせ・ご意見は以下までお願いします。

info@aero-osakafu-u.jp (鵬会事務局)

(ホームページ担当理事 作山 喜秋：19期、1976年卒)

鵬会会費：納入のお願い

これまで以上に鵬会の活動を活性化し、事業の充実を図ることが、平成 20 年度総会で承認されました。この事業の経費を賄うには、どうしても終身会費から年会費制に移行する必要があります。会員諸氏には是非ご理解賜り、納入方よろしく申し上げます。

なお会則第 32 条で正会員の会費は年額 2,000 円に決まりました。

従来の方法（同封の鵬会の振り込み用紙を使用して窓口から送金する：手数料、120 円）を基本としますが、会員諸氏の利便性を考慮して、以下に複数の口座を開設しました。なお振込み経費は振込人（会員）負担とさせていただきます。また複数年まとめて納入いただければ幸いです。（例えば 5 年分で 10,000 円、10 年分で 20,000 円等）

鵬会振込み口座一覧

1. 郵便振替口座 口座番号 00940-9-253876 口座名称 鵬会（オオトリカイ）	2. ゆうちょ銀行 記号 14170 番号 95837611 名義 鵬会（オオトリカイ）
3. 三菱東京 UFJ 銀行 中もず支店 普通口座 口座番号 4815113 名義 鵬会（オオトリカイ）	4. みずほ銀行 堺支店 普通口座 口座番号 1145281 名義 鵬会（オオトリカイ）
5. りそな銀行 ^{あびこ} 我孫子支店 普通口座 口座番号 0113541 名義 鵬会（オオトリカイ）	6. 近畿大阪銀行 堺東支店 普通口座 口座番号 1003962 名義 鵬会（オオトリカイ）
7. 近畿大阪銀行 堺東支店 普通口座 口座番号 1003962 名義 鵬会（オオトリカイ）	

お願いとご注意

1. 振り込み金額は会費（年額 2,000 円）とし、手数料は振込人負担とします。
2. 送金後、事務局宛に電子メール等で「×月×日、××××年卒、××××（氏名）××年度会費、××銀行から振り込み」といった連絡をお願いします。（メールアドレス：info@aero-osakafu-u.jp）
3. また、万一の事故等に備え、送金の記録の保存をお願いします。事務局からは特に領収書を発行しません。
4. 会員本人と異なる名義の口座から送金される場合は、その名義（カタカナ）もお願いします。
5. 会費納入手数料は振込み人負担とさせていただきます。

手数料節減効果の大きい例

インターネット利用の場合

1. りそな銀行オンライン口座（りそなダイレクト）から振り込み → 0 円
2. 新生銀行口座（新生パワーダイレクト）から振り込み → 0 円

A T M（自動現金預け払い機）を利用

3. りそな銀行キャッシュカードを使い、A T Mから振り込み → 0 円
4. ゆうちょ銀行の預金口座から A T Mを利用 → 120 円

りそな銀行に口座をお持ちの方には上記 1 または 3 の利用をおすすめします。

住所不明者リスト

多くの方にご協力をいただき、住所不明者の削減を試みっていますが、以下の方々の連絡先が分かりません。友人、会社の先輩、後輩など、ご存知の方は、鵬会事務局に連絡ください。あるいはご本人から鵬会事務局に連絡して下さるようにお伝えください。よろしくお願いいたします。

(2010年9月29日現在) (メールアドレス: info@aero-osakafu-u.jp)

- (昭和33年卒) 高橋 輝雄、西岡 恒雄、西村 博史、山本 隆一郎
(昭和34年卒) 大江 明、門田 利周、高須 睦也
(昭和36年卒) 大角 進、大淵 隆義
(昭和38年卒) 中村 俊一
(昭和39年卒) 織野 章
(昭和40年卒) 伊藤 允郎
(昭和41年卒) 浦川 定治、白尾 雅史、宮武 恵
(昭和42年卒) 荒木 勝英、田村 道雄
(昭和43年卒) 石田 喜代三、梶 愛一郎、富山 左右平、西山 建志、三宅 辰熙
(昭和44年卒) 熱田 正信、上原 章、内田 棕隆、大橋 和行、住友 聡一
(昭和45年卒) 北村 暢弘、峠 逸朗、三島 斉
(昭和46年卒) 井坂 晴道、内藤 克彦
(昭和47年卒) 荒川 孝、岡崎 学、河村 実、北 友太郎、栗山 義雄、小松 孝男、桜田 義夫、津幡 昭、
(昭和48年卒) 井上 保夫、梅本 幸男、小川 景、川崎 宗次郎、川瀬 朝通、北村 正史、木藤良 善久、木村 剛、佐々木 實、高橋 光政、田中 昇平、清水 実、中村 敏明、中野 隆
(昭和49年卒) 大崎 喜久、大森 啓郎、田原 俊明、津村 寿雄、中川 典昭、丹羽 一邦、松尾 誠、山下 進、
(昭和50年卒) 新井 崇夫、坂口 孝司、竹田 正弘、多田野 安正、森 正樹、芳賀 芳明
(昭和51年卒) 天田 直基、井川 修、掛林 一夫、北口 保、小林 道治、西岡 龍一、林田 正弘、森 泰見、山本 英夫
(昭和52年卒) 赤穂 秀信、岸 二郎、木村 隆弘、新造 宗三郎、竹内 昭久、藤岡 宏幸、村山 公正
(昭和53年卒) 岩下 弘利、植松 正、岡山 健、小牧 祥三、塚崎 勝彦、野村 恒彦、林 啓二、平元 友二、前川 均、妻鹿 直樹、湯浅 一郎
(昭和54年卒) 秋山 高広、上原 清一、岡田 辰己、小倉 優、高原 延治、中島 末光、中島 一夫、中嶋 正次、福島 治、若田 武志
(昭和55年卒) 今井 一雄、櫻山 謙二、瀨瀬 晋、清水 尊治、高橋 敬治、玉田 和行、長田 正美、松山 哲夫、宮原 卓志、宮本 武司、山下 敏彦、栗原 亮、船越 浩
(昭和56年卒) 内橋 健二、北田 孝佳、田中 哲也、田中 紀彦、谷垣内 靖、中西 義昭、西岡 正弘、二宮 玉喜、深江 真弘、松尾 久、松村 友進
(昭和57年卒) 恵藤 能行、大津 文隆、蔭山 武司、北川 欽哉、木原 照雄、崔 尚秀、坂本 孝紀、桜井 正文、高橋 逸治、中西 淳一、西川 誠一、春木 正一、森 和久、山本 鉄弥、吉田 泰則
(昭和58年卒) 稲田 幸彦、落部 日出夫、川島 靖人、北野 正夫、崎本 政彦、芝本 浩一、田中 和久、庭田 孝一郎、平野 雅宣、本田 浩司、松岡 泰史、森本 敬、吉田 俊之
(昭和59年卒) 阿河 一夫、荒木 真一、植杉 雄起、小川 秀策、川内 康司、佐藤 善雄、塩山 亨、清水 功、清水 孝志、鈴木 元広、多田 行治、巽 孝之、長岡 嘉浩、長野 裕之、内海 裕子、柳田 俊樹、横山 弘和
(昭和60年卒) 浅野 順一、小野 聡、岸 昭一、小林 成典、坂本 和隆、竹内 俊雄、田中 勝、西村 賢治、三屋 宏之、川波 徹、猪股 晃、川口 晃、田中 利和、斉藤 達也
(昭和61年卒) 板倉 正人、恩塚 明雄、川瀬 晴勇己、合田 祐三郎、清水 俊夫、瀧 将展、中原 さとる、西村 健一、増井 克己、松岡 孝佳、吉川 正人、吉田 信治
(昭和62年卒) 赤木 和弘、漆川 賢治、高相 和夫、辻岡 見一、中川 康一、西本 博信、朴 忠植、福田 尚男、広岡 邦江、古野 堅、山崎 伸宏、米沢 徹
(昭和63年卒) 小川 雄一郎、梶山 聡彦、勝山 靖博、柴野 英彦、春原 健、竹垣 厚志、田中 哲雄、森 伸一郎、森内 清司、吉田 貴和、芹澤 弘司、竹村 充彦、西澤 善敬
(平成元年卒) 安倍 功、内田 雄治、斧田 孝夫、楠井 徹郎、佐々野 浩、平山 恵良、高木 勉、高田 真司、立原 悟、谷村 知久、津田 吉弘、中村 善彦、野口 雅宏、松井 孝夫、三崎 望
(平成2年卒) 市川 匡宏、伊藤 肇、上田 直樹、北地 範行、佐々木 誠治、城前 仁、高橋 秀彦、二羽 誠、徳毛 やすし、前田 忠幸、村上 和秀、米澤 幸一、森 哲史
(平成3年卒) 岡本 拓也、濱 英介、福山 敢、河瀬 文人、柴田 浩文、野口 豊文、山本 誠治
(平成4年卒) 垣見 亮、菊本 浩介、木下 高志、古賀 義信、児玉 哲、酒井 勢都子、佐藤 要輔、清水 如中、花木 稔、萬代 孝司、福富 修、松生 潤、森本 武秀、森山 政行、山田 論宏
(平成5年卒) 池本 顕一、門野 秀巳、熊谷 宜久、酒井 雄彦、武田 達矢、浜口 武、丸田 壽和
(平成6年卒) 浅井 博朗、飯野 公彦、池内 俊明、池田 正広、磯福 朋之、宇野 富雄、柏原 寛樹、児島 政洋、小林 清

志、星出 智、堀 隆久、前田 大輔、虫上 広志
(平成 7 年卒) 秋山 勝則、足立 浩一、大澤 敏之、小山 浩司、久米 司、佐合 正弘、清水 琢矢、竹内 精一、田代 裕之、寺本 賢作、富岡 寛、樋口 知美、仲西 直樹、中光 淳、馬場 正信、松本 雄二、山田 雅史
(平成 8 年卒) 市川 裕之、上田 隆行、上野 晃宏、大久保 豪、大西 仁、鬼頭 勇二、國領 宣彰、白神 愛、田窪 英樹、田中 恒久、角田 寛純、根木 雄一郎
(平成 9 年卒) 伊藤 嘉彦、河野 達也、西野 仁貴、西村 篤久、平山 美也子、藤田 早苗、松生 謙二、光岡 友也、吉田 知生
(平成 10 年卒) 栢木 良典、川田 敬一、岸本 浩彰、小林 正和、塚 義友、刀祢 哲也、藤田 剛史、山本 清大、中澤 正和、渡邊 省吾
(平成 11 年卒) 内海 智仁、浦田 尚紀、大桑 純恵、北尾 明子、黒木 昌明、小松 雅弘、東郷 要、富岡 俊輔、中島 純、南 成勲、花房 康生、濱岡 伸之、古川 智、森本 睦子、佐々 英克、下城 孝名子、高坂 延良、永山 正臣、山田 哲武、小池 隆寛、田坂 慎一、吉田 豊
(平成 12 年卒) 緒方 健司、金田 大佑、嶋原 孝佳、津丸 雅代、橋元 太洋、平山 敦英、渡辺 省吾
(平成 13 年卒) 岩橋 敏郎、大原 徳彦、小池 崇文、後藤 剛志、小林 俊雅、坂井 宏彰、櫻井 俊輔、鈴木 純、高見 幸治、竹内 昭人、筒井 三智、中川 拓也、中村 陽一、野坂 和正、野村 桂太郎、畑 俊之、細見 教郎、榎野 寛仁、宮崎 康伸、村野 浩司、山本 英明、山本 昌明、吉澤 万水
(平成 14 年卒) 青田 昭仁、安藤 薫、伊藤 恵理、井上 将之、勝田 尚希、鎌田 宏和、河村 友樹、久保川 毅、佐藤 聖司、澤崎 雅彦、田村 昭夫、辻岡 利晃、中土 裕樹、廣田 泰之、藤田 克久
(平成 15 年卒) 東 洋平、阿部 吉和、熊木 健太、桑田 美和、白井 修、長江 清大、永田 研太郎、中村 行博、早瀬 祐美、前田 和哉、松江 淳、松田 佑、松本 慎介、宮本 真吾、守部 浩平、米津 安恵
(平成 16 年卒) 秋田 久美子、大塚 雅也、川島 健太、川崎 岳史、黒川 幸二、久保谷 岳央、斎藤 九五、津田 健太、中岡 秀之、樋口 彰、慶川 源太
(平成 17 年卒) 家谷 俊旭、石井 雅、石津 慎太郎、五十川 泰司、伊東 秀晃、木口 祐一郎、黒木 優子、笹井 美江、角野 宏紀、田中 孝次、名合 崇、長谷川 秀樹、松井 祥史、山地 雄介、萬 悦二
(平成 18 年卒) 氏家 正喜、大塚 智史、岡部 直太、香川 聡、片上 大輔、寺澤 裕司、中川 友人
(平成 19 年卒) 石川 雄三、岩田 理乙、戎野 嵩、岡本 真、河野 哲也、阪西 真美、佐野 裕和、佐藤 裕徳、杉本 龍一、関本 兵衛、西田 啓吾、福田 喬、松下 均、峰松 拓毅、山川 大輔、山部 篤史、山本 友也
(平成 20 年卒) 本田 徹

(昭和 41 年修士課程修了) 下谷 良則
(昭和 48 年修士課程修了) 坂本 晃
(平成 2 年修士課程修了) 恵上 浩一、宮野 智行
(平成 4 年修士課程修了) 何 強輝
(平成 6 年修士課程修了) 白 承宙
(平成 3 年修士課程修了) 谷光 玄行
(平成 9 年修士課程修了) 村田 充明
(平成 10 年修士課程修了) 井野 晋哉
(平成 11 年修士課程修了) 浅井 智広、中村 昌文、芳賀 徹、藤友 公嗣、楊 冬梅
(平成 12 年修士課程修了) 河田 俊行、諸岡 康郎
(平成 13 年修士課程修了) 岩谷 幸雄、立石 宜大
(平成 14 年修士課程修了) 大島 司、清水 努
(平成 18 年修士課程修了) 樋渡 康治、藤田 義久

中百舌鳥だより



前号で、府大池がビオトープとして改修されたことをお伝えしました。現在は、白鷺門から入った先のモニュメントから奥の道路（「白鷺門通り」と呼ぶようです）が工事中です。現在は、学术交流会館前は左の写真のように、舗装がはがされていて、12月末には完成するようです。どんな感じになるのか、楽しみです。ほかには、A5棟（旧8号館）の中庭も整備されています。キャンパスがきれいになっていくのは嬉しいことです。

さて、大学改革により、平成24年度から、現在の7学部が4つの「学類」に再編され、学部も「学域」に再編される予定です。工学部は「工学域」となり、学科は大きく再編されます。航空宇宙

工学部は、機械工学科、海洋システム工学科と合併して、「機械系学類」となります。24年度新入生からは「機械系学類」として入学し、2年進級時に、機械、航空宇宙、海洋システムの3コースに分かれることとなります。

編集後記

ご寄稿いただいた藤田康毅氏（3期）、杉山吉彦氏、秩父靖文氏（7期）、湯谷洋司氏（37期）、どうもありがとうございました。おかげさまで、充実した内容となりました。

同期会開催の折には、ぜひ、鵬ニュースレターにご投稿くださいますよう、お願い申し上げます。

湯谷氏をご指摘されているように、大学が「気軽に立ち寄れる場所」となることは大事なことだと思います。11月7日のホームカミングデイにぜひ、ご参加ください。当日は「白鷺祭」も開催していますから、ご家族連れでいかがでしょうか。なお、たいへん混雑しますので、電車・バスの利用をお願いいたします。

鵬会連絡不明者の削減にご協力いただいた多くの方々、どうもありがとうございました。しかし、相変わらず多くの方の連絡先が不明です。ご存知の方は鵬会事務局にご連絡いただきますよう、よろしくお願いいたします。

ご転居された場合には、鵬会への住所変更のご連絡をお願いいたします。ホームページから「エコ会員」登録もできますので、よろしくお願いいたします。

鵬ニュースレター 第30号

2010年10月15日

鵬会（おおとりかい）事務局

〒599-8531 堺市中区学園町1-1

大阪府立大学工学部航空宇宙工学教室内

TEL 072-252-1161 内2240

FAX 072-254-9906

E-mail: info@aero-osakafu-u.jp

<http://www.aero-osakafu-u.jp/>